

北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年9月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

目次

I：管内の農業・農村の主な動き

II：主な普及指導活動等の取組

1 地域プランに基づく普及活動

- （1）スマート農業技術や分業体制の確立等による肉用牛産地づくり
- （2）大規模農業法人等を核とした加工・業務用野菜の産地づくり
- （3）簡易基盤整備等による生産性の高い水田農業の推進
- （4）北諸県地域の施設園芸を牽引するきゅうり産地づくり
- （5）地域資源を活用した循環型農業の推進

2 地域課題一覧に関する普及活動

- （1）産地維持のための新規就農者の確保・定着及び円滑な事業承継
- （2）農業法人における雇用環境改善に向けた取組の強化
- （3）青果用野菜で稼ぐ大規模畑作経営体の育成
- （4）健全苗確保及びサツマイモ茎・根腐敗症の総合的防除によるかんしょ産地の維持
- （5）高品質茶生産技術及び効率的な生産体制の確立等による都城茶産地の維持
- （6）新規就農者の確保と環境制御技術等の導入に向けたいちご産地の維持・強化
- （7）省力化技術栽培等の導入によるへべすの生産力強化
- （8）果菜類における高温対策技術の導入支援

III：プロジェクト以外の普及活動

北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年9月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

I：管内の農業・農村の主な動き

（1）宮崎県農業大学校生が職場体験研修

宮崎県農業大学校の学生3名が、25日から30日にかけて普及センターで職場体験研修を行いました。本研修は、農業関連組織の役割を理解するとともに、社会人に必要な対人スキルや専門知識、就業意識を学ぶことを目的としています。学生たちは実地での経験を通じ、現場の視点や働く姿勢を深く学びました。今後も、将来の農業を担う彼らの成長のために応援します。



（現場での調査の説明）

II：主な普及指導活動等の取組

1 地域プランに基づく普及活動

（1）スマート農業技術や分業体制の確立等による肉用牛産地づくり

1）関係機関（NOSAI）と連携した巡回指導

3、9、15、17日、NOSAI みやざきの獣医師と連携し、重点対象農家4件の巡回指導を行いました。NOSAI 獣医師による超音波装置を用いたフレッシュチェック（分娩後の卵巣等の機能回復確認）や妊娠鑑定等を行い、普及センターからはイタリアンライグラス作付け前の施肥管理と土壌分析の重要性等についての助言を行いました。

今後も関係機関一体となって、生産性向上に向けた支援を行っていきます。

2）事業承継支援に向けた支援

1日、離農予定農家の中古牛舎を取得し、規模拡大を考えている新規就農者に対し、経営状況や飼養管理状況の確認、補助事業活用や青年等就農資金の活用、青年等就農計画の変更手続き等について支援を行い、併せて濃厚飼料やハエ対策の改善を支援しました。今後も青年等就農計画の変更に併せて収支状況の確認等の支援を行っていきます。

3）中古牛舎（離農予定農家）情報の収集に向けた意見交換

7日、昨年度JAが実施した全和牛農家を対象にした調査の結果から、今後数年で承継が予想される牛舎や、飼養頭数のデータから、中古牛舎の情報収集方法について、JAと意見交換を行いました。

今後も協力して情報収集を進めていきます。

4) 新規就農者の育成に向けた農業法人との意見交換

10 日、及び 14 日、肉用牛生産等の経営を行う大規模法人 2 件訪問し、雇用人材の確保状況や新規就農者の育成における連携に向けて意見交換を行いました。

今後、今回意見交換を実施した法人と具体的な協議を行い、肉用牛繁殖経営での就農希望者の支援強化に向けて検討を進めていきます。

(2) 大規模農業法人等を核とした加工・業務用野菜の産地づくり

1) 畑かん散水実演会を開催

1 日、法人や畑かんマイスター等を含む計 47 名に参加していただき加工・業務用野菜を栽培する大規模農業法人を主な対象とした散水実演会を開催しました。

今回は管内で導入事例のない中型自走式散水機や、その他既に管内に導入されている散水機についてそれぞれの特徴を説明の上、散水実演を行いました。

実演後には、水利用の重要性や散水機の改善点などについて活発に意見交換が行われ、有意義な実演会となりました。

引き続き安定した農業生産に向け畑かん利用の推進を図っていきます。



(中型自走式散水機)



(実演会)

2) 都城馬鈴薯生産部会総会の開催

9 日、生産者や関係機関など 35 名が出席し、今年度の部会活動の実績と今後の計画を確認しました。

普及センターからは、展示ほ・実証ほでの新たな知見や、コスト削減に向けた取り組みについて報告しました。

今後も、ばれいしょ生産の収益向上を目指し、生産者と一体となって取り組みを進めていきます。

(3) 簡易基盤整備等による生産性の高い水田農業の推進

1) 集落営農法人と農業法人の作業受委託に向けたマッチング支援

18日と21日、農業法人と集落営農法人で進めている作業受委託についてキャベツの定植が農業法人によって行われました。定植後の活着も良く、収穫は集落営農法人によって年明けから春先にかけて行われる予定です。今後は収益性の向上に向けて課題となっている収穫作業の人員配置等の見直しについて検討を進めていきます。



(定植後のキャベツ)

2) 集落営農法人の支援

8日、きつかな田で大豆の雑草が多く、放置すると収穫時に問題が生じるので、除草対策について検討を行いました。今年大豆を栽培しているエリアでは帰化アサガオが多く発生しており、農研機構等の「大豆栽培における難防除雑草の防除」マニュアルでとられている対策について情報を共有しました。また、アサガオの種類が不明だったので、後日、開花株を調査しマルバルコウとマルバアメリカアサガオの2種類が多いことがわかりました。アメリカアサガオには茎葉処理型除草剤が効きにくいことがわかっており、次年度以降、実証ほを設置して除草体系の見直しを支援していきます。

3) 水稻乾田直播栽培の生育順調（出穂）

5/14に播種を行った、乾田直播栽培（加工用米「み系358」）は、雑草の発生も抑え、順調に生育しています。穂数も、移植栽培以上に確保できており、10月上旬に収穫期を迎える見込みです。今後は、収量調査を実施し、課題の洗い出しを行っていきます。



(生育状況)

(4) 北諸県地域の施設園芸を牽引するきゅうり産地づくり

1) きゅうりの高温対策展示ほ設置に向けた事前打ち合わせ

17日、生育初期の高温対策として「アルミ蒸着フィルムマルチ」の展示ほを設置する生産者と設置・調査方法の打合せを行いました。

昨年度も同様の展示ほを実施しましたが、定植時の作業性や被覆面積の確保に課題があり、地温低下の効果も十分に確認できませんでした。このため、今年度はあらかじめ定植穴が開けられたタイプを採用し、畝面を広く被覆できるようにするとともに、地温低下の効果を高めるため、定植10日前に設置することとしました。

今後は、地温センサと根の観察用透明ボックスを設置し、地温や根の生育への効果を慣行区と比較し、確認していきます。



(展示ほ場の準備状況)

2) 経営資源(中古ハウス)の承継に関する支援

9日と15日、市内の中古ハウス2件について県農業開発公社の評価額の査定調査に同行し情報収集を行いました

1件は、近年中に離農希望の高齢者が所有するいちご栽培中の硬質フィルムハウスで築年数は経過しているものの良好な状態で管理されており、今後は新規就農者向けに公社が県内外での就農相談フェアで情報提供する予定です。

もう1件は、ガラス温室、ビニルハウス、中期展張ハウスと多様な中古ハウスを所有する生産から販売まで手がける花き農家の物件で、公社に事業承継を見据えた幅広い相談を申し込まれています。

今後も、関係機関と連携して農業承継を支援して行きます。



(バラの中期展張ハウス)



(硬質フィルムハウス)

2 地域課題一覧に関する普及活動

(1) 産地維持のための新規就農者の確保・定着及び円滑な事業承継

1) 就農・営農相談を実施

7件（肉用牛繁殖3件、養鶏1件、露地野菜1件、露地野菜・水稻1件、果樹1件）の就農相談があり、就農に向けての技術習得のための研修方法や、今後、認定新規就農者をを目指す場合の経営計画の作成方法、就農後の経営方針や、第3者承継にあたっての検討事項等について支援を行いました。

今後も地域の大切な担い手につながるよう継続して支援していきます。

(2) 農業法人における雇用環境改善に向けた取組の強化

1) 雇用環境改善に向けた農業法人との意見交換

24日、農業外国人材向けの農業技術習得に向けた研修会を開催するにあたり、外国人を雇用している露地野菜経営の大規模農業法人と研修内容や研修方法についての意見交換を行いました。

(4) 健全苗確保及びサツマイモ茎・根腐敗症の総合的防除によるかんしょ産地の維持

1) かんしょ坪堀調査（普通堀り）

14日、原料用かんしょ圃場（21筆）の坪堀調査を実施しました。コガネセンガンの収量は平年並み、みちしずくとムラサキマサリは昨年度より収量が多い傾向が確認されました。

原料用かんしょの収穫は11月上旬まで続く予定です。



(坪堀調査)

(6) 新規就農者の確保と環境制御技術等を導入に向けたいちご産地の維持・強化

1) いちご花芽検鏡の実施について

17日、普及センター生物診断室にて、JA 営農指導員とともに、いちご部会員18名分の花芽検鏡を行いました。

9月に入り曇雨天が続き、最高気温が30℃以下となっており、昨年同時期に比べ、花芽分化している苗が多く確認されました。この検鏡結果を生産者へフィードバックし、今後、9月末から10月にかけて、定植が行われます。



(JA 営農指導員とともに一斉花芽検鏡実施)

Ⅲ プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

（１）都城農業経営体支援センター幹事会の開催

17 日、都城市役所で都城農業経営体支援センターの幹事会を開催しました。JA と普及センターが中心に取り組んでいる農業者研修や産地ビジョン、経営指導にかかる実績や計画が協議されました。今後は市町とも農家への経営指導に関する情報を共有しながら、生産者を支援して参ります。

（２）農業経営サポート事業の掘り起こし

7 年度に農業法人向けに行ったアンケート結果で支援要望のあった 2 法人与事業承継や法人化を検討している 4 戸の生産者を戸別訪問した。うち 4 戸については農業経営サポート事業の活用の希望があり、今後事業を活用して課題に沿った伴走支援に取り組んでいきます。

（３）都城市特別融資制度推進会議の開催

18 日、都城市特別融資制度推進会議が開催され、申請のあった近代化 3 号資金 3 件について書面審査を行い、3 件ともに承認されました。

（４）三股町特別融資制度推進会議の開催

18 日、三股町特別融資制度推進会議が開催され、申請のあった青年等就農資金 2 件について書面審査を行い、2 件ともに継続審議となりました。

（５）都城市 S A P 会議 役員会の開催

25 日、都城市 S A P 会議の第 3 回役員会が開催されました。これまでの活動実績として、九州・沖縄地区青年農業者会議（鹿児島）や、新規就農者との交流会、北諸県地域懇話会などに参加し、地域農業の振興に尽力しています。今後も地産地消フェアや、各種まつりへの出店、婚活イベント等を行い、地域を盛り上げていく予定です。

（６）ぼんちアグリスchoolの講義

2 日、ぼんちアグリスchoolで秋冬野菜と土壌診断について講習を行いました。事前参加者の菜園の土壌を採取し、土壌分析を行い、診断結果の見方やこれから栽培する秋冬野菜の栽培のポイントについて講習を行いました。9 名が参加され、有機栽培や輪作、作物の生理、生理障害に関する質問等が多く出されました。普及センターでは今後もぼんちアグリスchoolの支援を行い、新規就農の獲得につなげていきたいと考えています。



（室内での座学）